

公益財団法人 全国学校農場協会 事業報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

公益財団法人 全国学校農場協会

## <概要>

平成25年3月21日付で内閣府の認定を受け、公益財団法人全国学校農場協会に移行して3年を経過した。平成28年5月11日に第1回理事会を開催し、27年度の事業報告書の件、収支決算書の件について承認された。農業教育（農業技術）の発展と振興を図る事業（公1）として以下を行った。全国大会・支部大会での農業教諭による研究発表及び各界のリーダーをお招きしての講演会（横山和成先生・尚美芸術総合センター他）を開催した。また農業教育研究協議会では農業教育に関する調査・研究の成果の発表及び全国農業会議所参事役・五十嵐正裕先生の講演をいただいた。

農業教育功労者表彰は全国156名の方に授与された。シンポジウムについては大学・各種団体の協力を得て、主催・共催・講演を含め4回開催した。学術・科学技術の振興を図る事業として全国6地区で農業実験実習講習会を実施した。この講習会は教員免許状更新講習の選択領域を実施することについて文科省から認定されており124名の参加を数えた。農村文化・芸術・文芸に関する事業では、日本農民文学会との共催による全国農業関係高等学校エッセイコンテストを実施したところ全国から多くの応募があり群馬県立根実業高等学校宮内祐亮君が最優秀に輝いた。原稿はホームページ上に掲載した。本年度より日本棚田学会との協賛で始めた「農業関係高校フォトコンテスト」には100を越える作品の応募があり、最優秀に香川県立石田高等学校の岡本彩也加さんが決まった。また、里山音楽祭を埼玉で開催し、農業と芸術との近い関係について多くの方々を知っていただく機会となった。

認定3年目になるが事業計画書に予定された事業について多くの関係者の協力によって盛会裏に実施することができた。反省点・改良すべき点などを踏まえ、次年度に生かして行きたい。

公益財団法人全国学校農場協会の事業に関する報告や成果については平成28年3月発行の**第53号研究集録**内に詳しく掲載されている。

## I 会員の動き

### 1) 協賛会員の状況（平成28年3月31日現在）

地区別協賛会員数

北海道地区	401名	
東北地区	896名	
関東地区	1549名	
北信越地区	483名	
近東地区	1111名	
中国地区	546名	
四国地区	397名	
九州地区	1321名	
本部個人会員	22名	総数6726名

## II 各種事業活動の実施報告

### <農業教育（農業技術）の発展と振興を図る事業（公1事業）>

#### 1) 研究発表及び教育行政・農政・学術・学際的講演による農業教育を推進する事業

\*原則一般公開、開催・内容については本協会ホームページにて告知する。

#### 全国大会講演（全国高等学校農場協会と共催）

講演1. 全国大会講演「土壌微生物多様性・活性値評価による土壌再生」

(元)独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター 情報利用研究領域  
上席研究員 横山 和成 先生

講演2. 農業教育研究協議会講演「農業後継者対策の現状と課題」

	全国農業会議所 日本農業技術検定参事役	五十嵐正裕 先生
新規就農対策について	農林水産省経営局就農・女性課長	渡辺 安宣 先生
初等中等教育の課題について	文部科学省初等中等教育局主任視学官	梶山 正司 先生

**支部大会講演（全国高等学校農場協会支部大会と共催）**

- 北海道支部「これからの農業教育の方向性」 国立教育政策研究所教育課程研究センター調査官 田畑 淳一
- 東北支部「食料・農業問題のとらえ方と農業教育」 秋田県立大学 生物資源科学部教授 長浜 健一郎
- 関東支部「変化する農業経営、経営戦略とキャリアアップの方向性」  
株式会社ファーマーズ・フォレスト 代表取締役社長 松本 謙
- 北信越支部「東日本大震災からの復興」 福島県川内村 村長 遠藤 雄幸
- 近東支部「連携・・・高島屋食料品部17年間」 株式会社高島屋京都店 課長 伊藤 憲太郎  
岩田 康子
- 中国支部「ふるさとを守る担い手の育成をめざして」  
公財鳥取県農業農村担い手育成機構理事長 上場 重俊
- 四国支部「6次産業型農業経営を目指して」 有限会社 井上誠耕園 園主 井上 智博
- 九州支部「地域資源を磨きあげろ 多様性と復元力の追求」  
国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会 会長 林 浩昭
- 「地域の未来を担う若者の育成をめざして」 一般財団法人とまと学校 小出 美紀夫
- 「我が家の6次産業化」 イーグルファーム 代表 鷲頭 栄治
- 「マイナー野菜を使った早期事業化と食品メーカーが必要とする原料とは？」  
くみに農産加工 代表取締役 吉丸 栄市
- 「夢・未来・花卉栽培」 (有) お花屋さんぶんご清川 代表取締役社長 小久保恭一

**全国大会研究発表**

- 「プロジェクトから農業教育の可能性にかける」 岩手県立遠野緑峰高等学校 村上 利行
- 「将来の地域産業を担う人材育成への取組～多様化する農業に対応する農業教育を目指した研究～」  
愛知県立鶴城丘高等学校 遠藤 友治
- 「農業教育の可能性と地域資源の活用」 山口県立大津緑洋高等学校 日置校舎 石橋 和弘

**支部大会研究発表（全国高等学校農場協会各支部と共催）**

- |       |                      |              |       |
|-------|----------------------|--------------|-------|
| 北海道支部 | 北海道の次代を創る新しい農業教育の推進  | 遠別農業高等学校     | 前田 久志 |
|       | 〃                    | 幌加内高等学校      | 高橋 真一 |
|       | 〃                    | 真狩高等学校       | 中西 聖  |
|       | 〃                    | 東藻琴高等学校      | 細川 満範 |
|       | 教科と連動した特色ある農場づくり     | 静内農業高等学校     | 池田 幸治 |
|       | 生徒が積極的に取り組む学校農業クラブ活動 | 旭川農業高等学校     | 小山 靖之 |
| 東北支部  | 教科指導                 | 山形県庄内農業高等学校  | 佐竹 正浩 |
|       | 〃                    | 宮城県農業高等学校    | 齋藤 太郎 |
|       | 〃                    | 秋田県西目高等学校    | 山崎 隆之 |
|       | 農業教育の充実・振興           | 青森県柏木農業高等学校  | 小玉 吉樹 |
|       | 〃                    | 福島県耶麻農業高等学校  | 永井 国之 |
|       | 〃                    | 岩手県遠野緑峰高等学校  | 村上 利行 |
|       | 農業教育課題               | 山形県上山明新館高等学校 | 齋藤慎吾  |
|       | 〃                    | 宮城県柴田農林高等学校  | 嘉藤 弘晃 |
|       | 〃                    | 秋田県大曲農業高等学校  | 佐々木孝之 |
|       | 学校農場運営               | 青森県三本木農業高等学校 | 佐々木秀幸 |
|       | 〃                    | 福島県福島明成高等学校  | 佐久間智子 |
|       | 〃                    | 岩手県盛岡農業高等学校  | 千葉 章浩 |

関東支部	豊かな人間性を育む農業教育の実践（共通テーマ）		
	学校農業クラブにおける取組とその可能性	神奈川県吉田島総合高等学校	高橋 晋太郎
	地域と連携した農業教育について	埼玉県秩父農工科学高等学校	今井 教夫
	生活科学科を対象とした「草花」の活用方法	千葉県成田西陵高等学校	阿部 育代
	造園業界とともに歩んだ技能五輪・ものづくりマイスター	茨城県石岡第一高等学校	八木沼 好美
	都市での農業教育	東京都農産高等学校	矢田部正弘
	本校の現状と静岡県のとりくみ	静岡県磐田農業高等学校	山内 剛
	群馬県食品系学科の取り組みについて	群馬県安中総合高等学校	武藤 一真
	日本版デュアルシステム・プロジェクト学習と進路指導	山梨県農林高等学校	齋藤 賢志
	北信越支部	社会人としての自立を目指した農業教育のとりくみと課題	福井県福井農林高等学校
地域文化・資源を活かした農業教育活動		新潟県新発田農業高等学校	難波 祐子
他学科・他教科との連携と課題		長野県佐久平総合技術高等学校	長原 正夫
近東支部	生産・流通系科目の効果的な連携	京都府農芸高等学校	山口 裕輔
	〃	愛知県佐屋高等学校	三輪 覚
	〃	兵庫篠山東雲高等学校	菊川 裕幸
	食品加工系科目の効果的な連携	滋賀県八日市南高等学校	尾形 亜紀
	〃	大阪府園芸高等学校	石田 真一
	〃	奈良県磯城野高等学校	阪田 一磨
	環境・ヒューマンサービス系科目の効果的な連携	和歌山県南部高等学校	大野 哲輝
	〃	三重県四日市農芸高等学校	松本卓也
	〃	岐阜県飛騨高山高等学校	遠藤 貴史
	校外への効果的なPR活動・情報発信	京都府綾部高等学校	荻野佳代子
	〃	愛知県新城高等学校	白井 秀典
	〃	兵庫県有馬高等学校	松原 未来
	連携を活かした魅力ある農場運営	滋賀県湖南農業高等学校	浅井 隆博
	〃	大阪府能勢高等学校	鹿嶋 英滋
〃	奈良県山辺高等学校	中井 政治	
中国支部	農業クラブ活動の効果的な連携	和歌山県熊野高等学校	東光 恭孝
	〃	三重県相可高等学校	久保田浩充
	〃	岐阜県岐阜農林高等学校	三輪 孝司
	食料供給分野での担い手育成のとりくみ	広島県吉田高等学校	森長康之進
	〃	岡山県瀬戸南高等学校	山本 弘
	環境創造分野での担い手育成のとりくみ	島根県出雲農林高等学校	波多野政幸
	〃	山口県山口農業高等学校	伊藤 顕一
四国支部	新規就農者を要請・育成するとりくみ	山口県西市高等学校	綾野 充繁
	〃	鳥取県倉吉農業高等学校	吉田 要
	希望が持てる学科経営と農場運営	愛媛県北宇和高等学校	福泉 安
	オランダ・ウエストン市先進農業視察	高知県幡多農業高等学校	大原 弥
	地域の農業資源を活かした取り組み	徳島県吉野川高等学校	富士 和美

九州支部	伝統野菜・三豊ナスを活用した新商品の開発普及	香川県笠田高等学校	川崎 博功
	<共通テーマ>21世紀生き抜く力を育み、進化し続ける農業教育の創造		
	農業機械での学習指導	沖縄県南部農業高等学校	上原 修
	農業機械での高大連携と資格取得	大分県佐伯鶴岡高等学校	三代雄一郎
	地域に根ざした農業教育の発信・本校畜産科のとりくみ		
		宮崎県都城農業高等学校	新村美由紀
	実践を重視した畜産教育	福岡県八女農業高等学校	白木 友和
	生徒のコミュニケーション能力の向上に向けて	鹿児島県鹿屋農業高等学校	花田伸一郎
	地域と活動する本校の取り組み	長崎県西彼農業高等学校	三宅 留美
	地域の貴重植物ボタンボウフウの普及	熊本県河浦高等学校	平木 慎二
ICT活用による草花の授業展開	佐賀県唐津南高等学校	田中美沙都	

**農業教育研究協議会での発表**

科目「食品流通」の取り組みに関する調査	茨城県立水戸農業高等学校	今井 芳彦
今後の在り方を視野に入れた科目「生物活用」と「グリーンライフ」の授業内容実態調査		
	千葉県立流山高等学校	中村今日子

**2) 農業教育功労者表彰及び感謝状の贈呈**

平成27年6月16日に農業教育功労者審査会を開催した。この表彰は申請から審査・授与まで農業教育功労者規程に基づき決定された。審査の結果本年度は全国156名の授与者であった。

**平成27年度農業教育功労者表彰審査結果**

支部	申請者数	合格者数	不合格者数
北海道	5	4	1
東北	19	17	2
関東	39	39	0
北信越	14	14	0
近東	40	39	1
中国	9	9	0
四国	5	5	0
九州	30	29	1
合計	161	156	5

**審査委員**

日置司明 森田恒夫 松戸多良 橋本倉司 風間龍夫 大橋幸男 田原良敏 戸塚厚生  
 太田和也 鈴木隆 小林俊徳 末松茂孝 田中平一

**表彰**

本会規定により平成27年度支部大会で表彰した。

**3) 農業教育・環境教育に関するシンポジウムの開催（共催）をする事業**

**○第3回農業女子フォーラム（主催）**

平成27年9月12日 新潟県上越市 上越文化会館  
 講演 農業女子が語る農業の持つ「豊かさ」「心地よさ」

松本 知恵 曾我千秋 金丸晴美

**農業女子プロジェクトの紹介**

農林水産省経営局就農女性課 渡辺涼太  
 アグリフューチャー・ジャパンについて 岡部由美子  
 パネルディスカッション

コーディネーター 千賀裕太郎（東京農工大学名誉教授）

統括アドバイザー 伊藤亮司（新潟大学助教）  
パネラー 松本知恵 曾我千秋 金丸晴美 ・ ・ 農業女子  
嶋田さやか 瀧澤絹華 高橋絵里香 ・ 新潟県農業高校生  
オブザーバー 渡辺涼太 岡部由美子 小川智子（新発田農業高校教諭）

#### ○武蔵野里山イニシアティブ「生命誌が教える土と食と祭り」（共催）

平成27年10月18日 埼玉県川越市ウェスタ川越多目的ホール  
講演 食を支える土・土壌微生物の世界（尚美総合芸術センター副センター長 横山和成）  
食を世界に・サイボクのとりにくみ（サイボクハム社長 笹崎静雄）  
大豆100粒運動（辰巳芳子がとりにくむ農と食のムーブメント）  
（NPO大豆100粒運動を支える会 代表理事 山下啓義）  
アレルギー0を目指す取り組み（石井食品会長 石井健太郎）  
韓国の東医宝鑑にみる食と医療（東洋大学講師 李 芝善）  
ローフードと健康（ローフードマイスター 丹羽なほ子）  
三富の伝統農業を学ぶ（川越総合高校FFJ）  
神話とまつり（作曲家 坂田晃一）  
秩父国際音楽祭の課題と展望（NPOちちぶ国際音楽祭副理事長 新井真理子）  
ディスカッション  
まとめ 古在豊樹（千葉大学名誉教授）  
五明紀春（女子栄養大学副学長）

#### ○環境と健康を考えるパネルディスカッション2～生活基盤の食を再考する

平成27年11月28日 千葉県柏市 東京大学フューチャーセンター  
パネルディスカッション  
講師 古在 豊樹（千葉大学名誉教授） 杉野 光明（杉野ファーム・柏市）  
尾田 正二（東京大学准教授） 横山 和成（農研機構上席研究員）  
司会 徳山 郁夫（千葉大学名誉教授）

#### 4) 学術及び科学技術の推進を目的とする事業

##### 実験実習講習会及び教員免許状更新講習（講習詳細は別添資料①）

全国6地区で実施した。受講者は124名、この内、教員免許状更新講習対象者は67名であった。

##### ○講習会概要と受講生数

- ・北海道地区「食品製造・作物」 帯広畜産大学 平成27年8月3日～7日 29名  
講師 小田 有（副学長理事） 山内 宏昭（教授） 三浦 秀穂（教授）  
平田 昌弘（准教授） 大西 一光（助教） 折笠 善丈（助教）  
川上 秋桜（助教） 田引 正（北農研センター研究調整役）
- ・東北地区「食品製造・農業機械」 八戸工業大学 平成27年8月3日～7日 13名  
講師 若生 豊（教授） 小林 正樹（教授） 浅川 拓克（助教）
- ・関東地区「食品化学・食品製造」 山梨大学生命環境学部 平成27年8月17日～21日 25名  
講師 谷本 守正（教授） 柳田 藤寿（教授） 奥田 徹（教授）  
山下 裕之（准教授） 岸本 宗和（准教授） 鈴木 俊二（准教授）  
久本 雅嗣（准教授） 乙黒 美彩（助教） 斉藤 史恵（助教）
- ・近東地区「植物バイオテクノロジー」 長浜バイオ大学 平成27年8月3日～7日 12名  
講師 蔡 晃植（教授） 林 誠（教授） 向 由紀夫（准教授）  
今村 綾（講師）

- ・中国地区「農業と環境」岡山大学農学部 平成27年8月3日～7日 25名  
講師 齊藤 邦行 (教授) 吉田 裕一 (教授) 森永 邦久 (教授)  
安場 健一郎 (准教授) 福田 文夫 (准教授) 山本 幹博 (准教授)  
岡田 賢祐 (助教)
- ・九州地区「食品化学・食品製造」西九州大学・佐賀大学 平成27年8月17日～21日 20名  
講師 柳田 晃良 (西九州大学健康栄養学部学部長)  
渡邊 啓一 (佐賀大学農学部 生命機能科学科教授)  
佐藤 三郎 (佐賀大学産学・地域連携機構長教授)

教員免許更新講習は更新に必要な30時間の内、選択領域の18時間分が文部科学省から認定されている。  
今年度、農業教諭以外からは家庭科教諭の参加が若干名あった。

## 5) 調査研究

本財団研究局では6つの教育課程専門部会（植物系部会・動物系部会・食品系部会・環境系部会・流通・経営部会・ヒューマンサービス系部会）を設け農業教育に関する調査研究を継続的に行っており、現場での農業教育実践に生かされている。また、農業高校の特色ある取り組み・大学推薦入学の調査も行っている。これらの結果は農業教育研究協議会及び研究集録、ホームページで公開している。

平成27年度の報告（流通・経営部会・ヒューマンサービス系部会は農業教育研究会で発表している。）

（農業教育研究協議会の項参照）

- ・教育課程に関する調査・農業と環境について
- ・農業系高校での特色ある取り組みについて
- ・大学推薦入試に関する調査

## 6) 花育読本の作成

小中学での総合的学習の時間また技術家庭科の生物育成に関するサブ教材として花育読本の作成に協力した。主体は全国花育活動推進協議会であり、農水省補助事業指定を受けて約10000部の冊子を作成、全国の学校へ無料で配布した。

## 7) 地域文化（文化・芸術・文芸）振興に関する事業

### 全国農業関係高等学校エッセイコンテストの実施

日本農民文学会との共催によるエッセイコンテストを実施した。今年で7回を数える。全国の農業系高校より34作品（校内選考を経由しての応募）の応募があり厳正な審査の結果、以下の様に入賞者が決定した。入賞者には賞状・賞品を授与した。

平成27年度最優秀賞	「山を再生し、地域を活性化させる」	群馬県立利根実業高等学校	宮内 祐亮
優秀賞	「私の夢は農業教師」	栃木県立宇都宮白楊高等学校	川嶋虎太郎
	「将来の夢」	東京都立農芸高等学校	宮崎 愛莉
	「私の目指すフラワーデザイナー」	長野県立佐久平総合技術高等学校	寺尾 実来
	「技能五輪への道」	大阪府立園芸高等学校	下島 海人
	「私と、学校生活」	大阪府立農芸高等学校	奥山 晴香

なお、審査会を平成28年1月13日に、1月26日にホームページで発表した。

審査委員は次の様である。

野中 進（日本農民文学会会長）

日置 司明（公益財団法人全国学校農場協会理事長） 大木 高之（全国高等学校農場協会会長）

田中 平一（公益財団法人全国学校農場協会事務局次長）

## 第1回農業関係高等学校 農業・農村写真コンテスト

生徒の部 最優秀賞 「ヒロイン出番ですよ」 香川県立石田高等学校 岡本 彩也加  
優秀賞 「広がる耕作放棄地～その可能性にかける」 大阪府立園芸高等学校 見上 光  
「棚田」 岡山県立高松農業高等学校 妹尾 朋美  
「三人四脚」 栃木県立真岡北陵高等学校 中谷 将輝

教職員の部 優秀賞 「だいたい植わったかな」 群馬県立伊勢崎興陽高等学校 教諭 中野 英子  
「大収穫」 岩手県立盛岡農業高等学校 教諭 千葉 久  
「残照」 栃木県立真岡北陵高等学校 教諭 山本 武史

### 里山芸術祭の開催

#### ○里山讃歌音楽祭KAWAGOE2015 (後援)

平成27年12月23日 川越市・ウェスタ川越大ホール

4回目を迎えた里山讃歌音楽祭は、川越市内の農業系高校である埼玉県立川越総合高等学校と音楽系大学である尚美学園大学が「農と音楽」の交流の成果を発表するために始まった演奏会である。音楽祭は年々充実してきており本年は市内から多くの高校生が参加をしてくれた。音楽を通して多くの皆さんへ武蔵野里山の魅力と大切さを伝える機会ともなっている。

#### プログラム

坂田晃一編曲 「美しい日本の四季」 ソロヴォーカル 土居裕子  
坂田 晃一作曲 合唱組曲「賢治の風景」  
ベートーベン作曲 交響曲第9番「合唱付き」から第4楽章

#### 指揮

坂田 晃一 (作曲家) 今村 能

## 8) 広報活動

本財団の広報活動は新聞・ホームページによる。

### 公益財団法人全国学校農場協会新聞の発行

季刊とし、年四回の発行。会員に郵送している。主に本財団の事業についての予定及び報告が中心である。

### ホームページ

本財団の事業・会計内容を含む財団の概要を掲載するとともに会員及び一般の方に対して農業教育に関する研究成果の公表、研究会・シンポジウム等の告知、協力他団体との情報公開などに努めている。

## III 公益財団法人理事会・評議員会の開催状況

### 1) 理事会

平成27年5月15日	農場協会会館	平成26年度事業報告・収支決算書 (承認) 連絡事項
平成27年6月12日	農場協会会館	理事長および常務理事の選定について
平成27年8月28日	農場協会会館	事業の進捗状況 (報告) 農業教育功労者表彰 (承認) 第7回エッセイコンテストについて (承認) 連絡事項
平成27年11月13日	農場協会会館	フォーラム・シンポジウムの開催について (報告) 農業教育研究協議会の講師の選任 五十嵐 正裕氏 (承認) 農業実習助手の免許法認定講座の報告 (実施・東京農業大学)

平成28年2月19日 農場協会会館 平成27年度事業の報告（実験実習講習会 他）  
平成28年度事業計画について（承認）  
平成28年度収支予算書について（承認）  
農業関連高校フォトコンテストについて（承認）（柵田学会共催）

## 2) 評議員会

平成27年6月12日 農場協会会館 平成26年度事業報告、決算書について審議し承認された。  
平成27年度事業計画書、予算書について審議し承認された。  
平成27年度 役員の選任について  
連絡事項

## 3) 監査会

27年5月15日、8月28日、11月13日、28年2月19日に実施、理事会で事業・予算について監査報告。

## IV 収益事業

### 1. 家賃収入事業

本財団は1階部分に2店舗を所有しており、其々の事業主に賃貸した。